

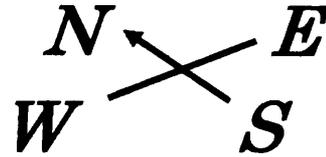
藤沢

# エコネット

2011年7月1日

第206号

藤沢環境運動市民連絡会議  
(略称) 藤沢エコネット



- 主 事 ・ 学習会報告 「福島原発事故レベル7とは」
- な 「福島原発事故を考える」
- 記 ・ 大気の汚れNO2 測定結果 (2010.12月)
- 事 ・ 武田薬品排水問題第3回控訴審結果

[http://members3.jcom.home.ne.jp/fujisawa\\_econet/](http://members3.jcom.home.ne.jp/fujisawa_econet/)

事務局 〒252-0816 藤沢市遠藤 849-9 青柳

☎/FAX 0466-87-4922

e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp

## 藤沢市議会 小さいが、光は見えた

昨年から何回もの請願が否決され続けていた100条委員会設置を求める市民の声が、市議会議員の改選でようやく実り、行政寄りから市民寄りに大きく変わるのでは、と期待できる藤沢市議会でした。

未曾有の福島原発事故を受け、6月議会には、多くの市民が放射能問題に立ち上がり、放射能関係の陳情が11件も出されました。各陳情文と各議員の賛否を、市民電子会議室の「これでいいのか藤沢市」

<http://net.community.city.fujisawa.kanagawa.jp/conference/conferroom.php?CONFERNO=344>

に、書き写してありますので、インターネットを見られる方は、ぜひご覧ください。

6月13日の厚生環境常任委員会では、ガイガーカウンターを、希望する町内会に、配布を求めるもの、藤沢産の野菜(全種類)・海産物(海藻含む)や、海水・砂浜の放射線量を週1回程度測りすみやかに公表することを求めるもの、食品(野菜・果物・海産物)の放射性核種ごとに検査し、その具体的なベクレル数を食品ごとにラベルでつけることについて、早急に法制化することの、国への意見書の提出を求めるもの、以上3つが、不採択でした。

6月14日のこども文教常任委員会では、学校の校庭などを測って公表する事を求める趣旨を含む陳情が、3つ採択されましたが、給食の食材を測って公表する事を求める趣旨を含む陳情2つは通らず、藤沢市産の給食の食材について測って公表する事を主張した1つだけが採択。市内保育園園庭、小学校校庭、公園の表土除去をすることを求める陳情は、不採択でした。6月15日の総務常任委員会では、浜岡原発の廃炉を政府に要請する意見書提出を求める陳情は通りませんでした。

以上、改選されて大きく市民寄りに変わるかも、と思っていた私には期待はずれな結果でした。学校の校庭などを測って公表する事を求める趣旨の陳情が通った3つは、これはその採決に先立ち6月1日から市がすでに校庭などの測定を始めているので、議会が行政に追従した形にしかありません。あえて光明を探すと、藤沢市産の給食の食材についての測定を主張した陳情を通した事だけが、まだ市がやってない事を議会がやれと言ったとはっきり言え、小さな一歩ですが議会の行政追従からの脱却の兆し、と期待したいものです。

なお、藤沢市産でない給食の食材を調べるかどうか不安ですが、通ったその陳情には、「保育園および学校給食から、放射能汚染された食品を極力排除し、子供たちの内部被曝を最小限にすること」とも併記されていますから、藤沢市産でない給食の食材も測定するべき、と解釈できます。

もっと光明が見える事としては、陳情を出した方の氏名に、よく良い主張を出してくれる(あの団体やあの市民の方)、だけではなく、あまり聞かない名前の市民の方が、新たな市民が主張し始める事が、市民の意見が通る未来につながるのだと期待したいです。

(内藤 繁)

## 福島原発を考える

### 原発の仕組みと福島原発事故

福島原発事故から3ヶ月が経ち、次第に原因が明かされてきたなかで、放射性物質の怖さや、いつ収束を迎えるのかの不安が増してきている。

藤沢エコネットと湘南学習会議、鎌倉逗子学習会議の共催で学習会が116名の参加により開催された。講師は館野淳さん(元原子力研究所研究員 工学博士)と、川崎健さん(東北大学名誉教授)で、いま知りたい原発事故の話は参加者も息をのむほど真剣に聞き入った。館野氏のお話の内容は以下の通りである。

#### 事故の経過

地震を契機とした全電源喪失と、それに引き続く冷却材喪失事故である。1979年に起きたスリーマイル島での事故は、事故発生後100分で炉心が露出、その後緊急炉心冷却装置(ECCS)が働き200分後には再冠水した。つまり100分間に炉心溶融、水素発生、など、行き着くところまで進行しているが、福島原発では、事故の初期における情報がほとんど公表されていない。

原子炉は巨大な「湯沸かし」である。異なる点は制御棒が挿入され、核反応が止まっても発熱はすぐには止まらないという点である。放射線がでる限り発熱する＝崩壊熱。冷却剤喪失事故は崩壊熱との戦いである。

3月11日14:46地震発生(M9.0) 制御棒自動挿入で核反応停止。外部電源喪失。15:42津波により非常用ディーゼル発電機停止。燃料タンクの流出、配電盤水没、16:36 ECCSによる注水不能、19:03原子力緊急事態宣言発令、20:30 2号機の冷却装置停止、22:50 2号機炉心露出、保安院は溶融予測、12日1:20 1号機の格納器圧力異常上昇・炉心露出か、15:36 1号機で水素爆発……(以下省略)

#### 当面実施すべきこと

- ① 大地震・津波の予想される立地点の原発の廃止
- ② 老朽化した、また古い設計の原発を廃止し事故リスクの低い最新鋭の原発だけを稼働させる
- ③ 行政の抜本改革、規制と推進の分離、政官学癒着体制の解体

#### 中長期的措置

現在の原子炉技術システムの抜本的改良・固有安全炉の研究開発。国際的安全規制機関の設立(IAEA強化)再処理・ダウンストリーム、プルトニウムの扱い。プルサーマルは即時中止すること。エネルギー政策を①一般電力生産会社 ②原子力発電会社 ③送電会社に3分割する。安全のコストの問題はあるが、東電は「自己責任」において経済損失の処置をすべきである。

## 福島原発事故と海の汚染

川崎健氏より海の汚染に関して、人口放射性物質による海の汚染の歴史や海流と放射性物質の移動・拡散等についてお話を伺った。

汚染の歴史では、1993年川崎氏が著した「海の環境学」を資料に説明した。放射性物質は自然状態で海洋にあり、また宇宙線や人間活動によって持ち込まれている。核兵器の実験、原子炉や再処理工場からの排出物からである。かつて放射性廃棄物が海洋投棄されたことがある。核の3大事故(ウインズケール(英)スリーマイル島(米)チェルノブイリ(ソ連))は地球規模では海洋には大きく影響しなかった。原子力艦船からの影響は間違いないが、情報がない。海中の放射性核種は生物に内部および外部被曝を与える。

海産生物と放射性物質について、海水に入った放射性物質は海水中で拡散・希釈され、海藻類では直接藻体内に、イカ・タコ類など海産動物ではエラや体表などから直接とる海水経路と餌を食べる事による餌経路とある。餌経路では海水→植物プランクトン→動物プランクトン→小魚→大きな魚へ、それらの死骸・排泄物→バクテリアが分解→海水へと移行する。ヨウ素は海産生物からの排出は早い、セシウムはカリウムと似た化学的性質があり、魚の場合は食材となる筋肉などの軟組織に移行しやすい。海水から海産生物への移行の程度を判断する濃縮係数は10から100程度の範囲で放射性核種の種類や生物種などにより異なる。

今回、福島原発の南、常盤沿岸の南北数十キロの水域でコウナゴ汚染が起きた。さらに原発から北へ15キロや北37キロの水深20~30mの浅い海底土が汚染された。常盤水域は南からの暖流黒潮と北からの寒流

親潮が混合する水域で、黒潮はそこから東に流れ、親潮は北からそこへ南下してくる。この潮の影響と春になり海の表面が暖められて物質が下方に拡散せずに滞留し、それをコウナゴが取り込んだと考えられる。

海洋汚染で問題なのは、旧ソ連の原子力潜水艦や核兵器搭載機の事故で、日本海で多発し沈没している。更に旧ソ連時代の1959年から極東水域を含む23か所で、原子炉や放射性廃棄物の海洋投棄が繰り返された。

福島原発事故では海洋汚染防止条約(ロンドン条約)に違反し「低レベル」の放射性物質を含む水を放出し、原子炉規制法など国内法に違反する。(H&A)

### 福島原発レベル7とは

藤沢エコネット第2回原発学習会が5月15日に「ストップ・プルトニウムかながわ連絡会」の水沢靖子さんを講師に迎え開かれました。

今回の事故で放出された放射能により、空気も土も、そして牛乳、水道水、農作物も魚介類も汚染されてしまった。原発から放出された放射能の種類と量について正式な発表はなく、各地で放射線量が急増している。放射能汚染は今後も続き、外部被曝、内部被曝について被曝量の評価もあり、できるかぎり汚染の少ないと思われる食品を摂取することの重要性が示されました。今後、食物連鎖による内部被曝が心配になりました。チェルノブイリの事故後、ドイツの報告データでは、食べ物に気をつけた人とそうでない人で、人体中のセシウム(134 + 137)の平均値に大きな差が出ている事実もあるそうです。神奈川にも福島原発から放射能が到達していることが「環境・防災Nネット」の現在の測定値と過去の変化を表示したグラフでわかります。

日本に原発が導入された最終的な目的はエネルギー利用ではなく、軍事利用が根底にあったという本質を突いたお話でした。(ゆめ)

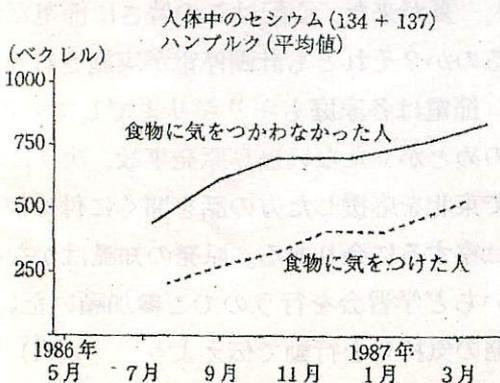


図2-6 食べものに気をつけた人、つけない人

### 大気(NO2)の汚れを考える(2010.12 測定結果)

藤沢の空気を考える会で市民が測定した222か所をまとめた藤沢市内13地区別2010年12月測定結果は、平均0.055ppmで、現在の環境基準(0.04~0.06ppm以下)の上限に近い値でした(下記表参照)。しかし、旧環境基準(0.02ppm以下)を超えていて、これではぜん息の減少は期待できません。

#### 藤沢市測定結果の地区別集計(2010.12)

(藤沢の空気を考える会)

13地区別	道路沿 い(平均)	非道路沿 い(平均)	合計(平 均)
片瀬地区	0.074ppm	0.045ppm	0.055ppm
鶴沼地区	0.097	0.027	0.072
辻堂地区	0.084	———	0.084
村岡地区	0.077	0.049	0.059
藤沢地区	0.069	0.060	0.066
明治地区	0.041	0.026	0.036
善行地区	0.043	0.064	0.048
湘南大庭地区	0.090	0.031	0.073
六会地区	0.072	0.046	0.061
湘南台地区	0.034	———	0.034
遠藤地区	———	0.041	0.041
長後地区	0.040	0.032	0.036
御所見地区	0.083	0.035	0.056
全体	0.067	0.040	0.055

藤沢エコネットでは2011年2月に武田薬品湘南工場が稼働するにあたり、2010年12月から湘南研究所周辺の空気(NO2)を市民調査し始めました。その結果は以下の様です。工事中のせい、研究所北側塀は割合高めですが、周辺住宅は数値が低く良い環境です。

(青柳)

#### タケダ薬品湘南研究所周辺大気測定結果(2010.12)

測定点	濃度 (ppm)	測定点	濃度 (ppm)
藤沢市側		鎌倉市側	
村岡東4-16	0.033	植木436-1南3F	0.019
村岡東4高谷下公園	0.025	植木436-1北3F	0.023
村岡東城址公園	0.059	植木436-1入口	0.016
村岡東2丁目(北塀)	0.051		
村岡東2丁目(北塀)	0.046	平均	0.033
小塚41東公園	0.029		

### タケダ排水問題第3回控訴審結審!

5月30日、「武田薬品研究所用下水道管敷設費用違法支出差止請求住民訴訟控訴事件」第3回控訴審が東京高裁で開かれた。この日、原発と同様、安全神話を言い続ける藤沢市に対し、一旦排出されるとコントロール困難なバイオ排水の危険性を論ずるバイオハザード予防市民センター代表幹事・新井秀雄氏と昭和53年住民協定締結時を知る当時の市議員大山正雄氏を証人として申請したが認められずに結審したのは残念である。もっとも新井氏の陳述書は証拠書類として提出してある。

裁判の争点は、藤沢市が、昭和53年に結んだ住民協定及び武田薬品等50数社と結んだ個別協定に違反した事である。大清水浄化センター（公共下水道）へは公害防止のため工場排水（工程排水）を受け入れないと、住民協定及び個別協定を結んだに関わらず、大量の危険なバイオ排水を市は受入れる背信行為を行った。

市は研究所排水が工場排水ではないから協定に該当しない、また下水道法では下水道管を敷設すれば企業はそれに排出する義務がある等と主張する。バイオ排水は工場以上に公害をもたらす危険性がある。また協定締結当時、下水道法10条但し書きを適用して工程排水を受け入れないとする協定を結んだ経緯を主張した。判決は8月3日10時55分、東京高等裁判所822号法廷。（青柳節子）

### 「原発問題市民アンケート」のお願い

東日本大震災・福島第一原発事故から4ヶ月が経とうとしています。藤沢エコネットではこの度の原発事故について、藤沢市選出のすべての議員へのアンケートを行っています。さらに、同趣旨のアンケートを市民の方々にもお願いしています。是非、市民の皆様の声をアンケートにお寄せ戴きたくお願い申し上げます。締め切りは7月19日までです。回答の方法は、下記のいずれかをお選びください。お返事を心よりお待ちしております。コピーの拡散大歓迎。

藤沢エコネット事務局 郵送先:〒252-0816  
藤沢市遠藤849-9 青柳 節子  
メール: [aoyagipc@jcom.home.ne.jp](mailto:aoyagipc@jcom.home.ne.jp)  
アンケートフォームは藤沢エコネットHp上からもダウンロードできます。多くの方々に広めてください。  
[http://members3.jcom.home.ne.jp/fujisawa\\_econet/](http://members3.jcom.home.ne.jp/fujisawa_econet/)

### ECONET INFORMATION

#### 藤沢市ホームページで公表

藤沢市内の学校・保育園などの校庭・プールの放射線の測定値を公開しています。(6/11付け)放射線量に不安な方は開いて見ましょう

「クールアースデー」セタ ライトダウン (消灯)  
7/7 20:00-22:00の支障のない時間 環境省発



#### 武田問題連絡会総会&講演

特別講演「本当に安全なバイオ研究所とは？」

講師 新井秀雄氏 (バイオハザード予防市民センター代表)

参加費300円

7月3日(日) 14:00~村岡公民館3F多目的室

#### 藤沢エコネットから

#### 第4回原発学習会 「放射線の身体への影響」

講師 辻秀雄さん (放射線生物学者)

7月17日(日) 13:30~15:30

産業センター6階研修室3 資料代500円

後援 湘南学習会議/湘南天使力発電/

脱原発かながわの会



#### 藤沢エコネット定例会

原発・エネルギー問題、放射能や大気汚染など山積みの課題を話し合い、これからの運動の方向を考えたいと思います

7月9日(土) 10:00-12:00 推進センターにて

次回 事務局会議 7/14(木) 15:30~  
市民活動推進センター

《編集後記》 夏が来た。心配はこの暑さに節電だけで乗り切れるのか?それとも計画停電が実施されるか?である。節電は各家庭もギリギリまでしている。未だに収束のめどが立たない福島原発事故、次々にボランティアで東北を応援した方の話を聞くに付け被災者の現況は察するに余りある。原発の知識はかなり得たがもういちど学習会を行うのでご参加願いたい、そして脱原発の気持ちを行動で伝えよう (H)